



自然共生社会の構築

国際的な化学物質使用規制の高まりを受け、環境負荷物質を使わない製品の開発や工程づくりを進めています。また、自然共生社会構築に向け、生物多様性への取組みや地域社会との協働活動を推進しています。

製品含有化学物質管理の充実

はんだの鉛や、樹脂・ゴムの可塑剤として使用しているフタル酸エステル(4物質)など新たに規制対象となった環境負荷物質に対し、それらを含まない製品への切替えを進めています。また新規設計品には法やお客様の要求に合わせ、環境負荷物質を使用しないよう設計基準を適宜改訂しています。

□ 規制状況

	2014	2015	2016
全世界		●GHS 第6版	
欧州	●EU RoHS2指令施行 ●EU REACH規制 SVHC (第15次まで:計169物質) 要認可物質 (第4次まで:計31物質) 制限物質 (エントリ66まで) ●EU BPR規制		●EU ELV指令 Annex II 改正
北米	各州法制定・改正 ●米 カリフォルニア州 グリーンケミストリー法 ●カナダ 水銀含有製品規則	●カナダ HPR ●米 HCS/OSHA (混合物の分類・ラベリング)	●米 TSCA改正 ●カナダ 2012年特定有害物質 禁止規制改正規則
アジア	●中国 新化学物質環境管理弁法 ●韓国版 REACH ●韓国 改正WEEE/RoHS/ELV規則 ●中国 GB/T30512-2014	●インド AIS-129	

※REACH規則:Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals (化学物質の登録・評価・認可・制限に関する規則)

イモビキーのグリップ部材料変更

グリップ部の使用材料をRoHS指令※において制限対象となっているフタル酸エステル(DEHP、DBP、BBP、DIBP)を含有していない材料へ変更し、環境負荷の低減を図りました。

※欧州連合(EU)による電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についての指令



イモビキー

リアエンブレム 印刷廃止によるVOCの低減

従来のリアエンブレムは、黒色部分を溶剤型インキによる印刷で加飾していたため、低VOC化が課題でしたが、黒色部分を材着樹脂成形に置き換えることで、

VOCレスかつ高意匠の外観を実現することができました。

□ 黒色部分の加飾



Voice

今回の改善で一番苦労したことは、成形時に発生する外観不良を無くすことでした。設計・生技・品管部門で連携してみんなで知恵を出し合い、その結果、印刷の廃止を実現することができました。努力が実を結んだことに大変うれしく感じています。



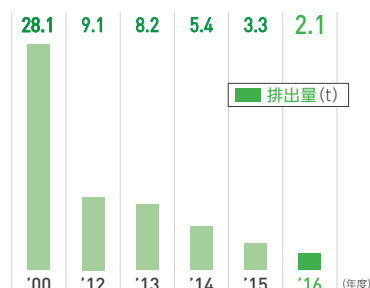
生技開発部
恒川 貴博 さん

自然共生社会の構築

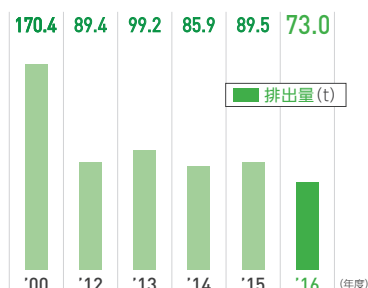
生産活動における 環境負荷物質の低減

環境や人へのリスクが限りなくゼロになるよう、生産工程での有害物質使用の最小化に取り組んでいます。

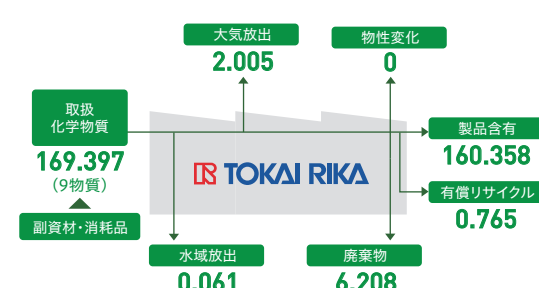
PRTR全社排出量



VOC(揮発性有機化合物)全排出量



PRTR対象物質排出・移動量



内装スイッチへの水性塗料採用

海外向け車両内装スイッチにおいて、当社として初めての試みとなる水性塗料を採用しました。水性塗料は従来の塗料に比べVOC(揮発性有機化合物)の含有率が非常に小さく、作業者の安全衛生および環境保全の両面で貢献しています。



自然共生社会構築に資する 社会貢献活動の推進

「自然・地域と共生する」という経営理念のもと、「良き企業市民」として、さまざまな形で地球環境の保護に貢献する活動に取り組んでいます。

地域の清掃活動

本社工場、音羽・萩工場では、地域の市町が推進しているアダプト清掃プログラムへ登録し、定期的な清掃活動を実施しています。また、本社工場の近くを流れる五条川は、桜の名所として知られており、町内を流れる河川が美しい憩いの場になるようにと、毎年3月にたくさんの社員やご家族、OBが参加し清掃活動を行っています。

Voice

私が初めて清掃活動に参加したのは、主人に誘われたことがきっかけでした。一見きれいに見える五条川でも、いざ川の中に入ってみると、ビニール袋やタバコの吸い殻などたくさんのゴミが見つかり、驚きと同時に参加して良かったなあと思いました。今では、川がきれいになっていく姿を想像しながら、楽しんで活動に参加しています。



材料技術部
桜井 恵美子 さん



大口町アダプトプログラム清掃活動



五条川清掃活動



五条川清掃活動参加者

環境保全・生物多様性保全の推進

生物多様性の保全と持続可能な環境の実現に寄与できるよう、東海理化グループ全体で植樹などの取組みを推進しています。

□ 生物多様性の取組み指針

指針	実施事項
① 社会と連携し自然を育む	- 地域やオールトヨタとの協働による多様性を育む社会づくり - 啓発による社員の意識高揚と行動の促進
② 自然にやさしい技術の導入	軽量化・リサイクル配慮設計、化学物質管理
③ 自然と共生する事業活動の推進	水域保全、CO₂低減、資源循環、環境負荷物質低減
④ 積極的な情報の開示	取組み内容の発信

グローバルでの植樹活動推進

地域社会やNGOとの連携を通じた植樹活動をグローバル全体で継続的に展開しています。2016年度

はTRIN(アメリカ)で実施した桜の植樹など、各拠点において社員が積極的に参加し植樹を行いました。



TRCF(中国) 植樹活動



TRCT(中国) 植樹活動



TRI・TRSI(インドネシア)
マングローブの植樹活動



TRIN(アメリカ)
桜の植樹活動

河川の生態系調査

本社工場に隣接する矢戸川の生態系構造を確認するため調査を実施しました。「シマヒレヨシノボリ」など地域に生息する生き物を確認することができましたが、「カダヤシ」や「アメリカザリガニ」など生物多様性を脅かす外来種の確認もされたため、今後は生態系維持のための活動を進めていきます。



矢戸川の生態系調査



シマヒレヨシノボリ

生物多様性講演会

生物多様性の重要性について、社員の理解を深めるため、『企業と生物多様性イニシアティブ』の事務局長をお招きし、「生物多様性がもたらす持続可能社会に向けて」「これからの生物多様性保全と企業の役割」をテーマに講演会を開催しました。



生物多様性講演会